



TOKO (都工) 進路通信 (第10号)

[2024年(令和6年)1月26日発行]



就職先企業からの訪問増加中

1月に入り、県外企業の来校が増えていきます。本年度の入社試験の傾向や来年度の選考の予定の話が中心です。

企業の方々には来年度も希望者がいるか、どのような職種に興味を持っているのかについて問合せをされます。2年生の進路希望の情報をわかる範囲で企業にお伝えしながら、来年度も求人いただけるよう話をしているところです。

進路関連行事

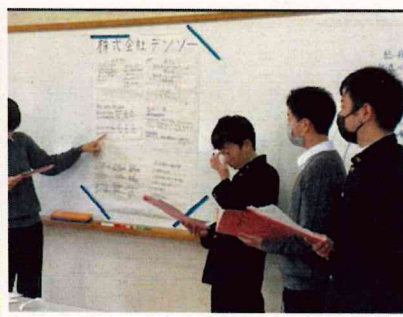
2月5日(月) SPIテスト(2年)
2月13日(火)~2月16日(金)
3年生大学進学学習会

3年生就職に関するアンケート未回答の3年生はQRコードでアクセスしてアンケートに教えてください。
回答締切: R6.1.31(水)



総合的な探究の時間(1年): 企業研究の発表

1年生は各クラスで班ごとに企業研究を進めて、先月、調べた内容の発表会を実施しました。中学校でもパワーポイントや模造紙を使った発表をしてきているので、堂々と説明をしている生徒も多かったです。しかし、なかにはふるえる手で説明メモを持ち、自信なさそうに説明する姿もありました。多くの場数を踏んで、就職試験の面接でも緊張しないような精神力をつけさせる重要性を感じました。発表の内容は学科に関連のある企業を取り扱っているため、発表を聴く生徒達も真剣でした。私も聴いていて企業の歴史や企業が求める人物像など、参考になる発表が多数ありました。



進路受験体験発表会(3年生から1・2年生へ)

1月17日、全学科の3年生が、1・2年生に対して進路受験体験発表会を実施しました。実体験からくる貴重で参考になる話の下級生は耳を傾け、自らの進路選択に活かし、就職試験までのイメージをつかんでいたようです。3年生からの説明後に設けられた質問タイムでは、「作文試験はありましたか? タイトルは何だったですか?」「作文の内容と文字数、記入時間を教えてください。」「資格を今まで何個取得しましたか?」など具体的、活発に質問していました。



2年生はいよいよ進路決定に向けて、担任の先生との面談が実施されているクラスもあるようです。1年生も総合的な探究の時間で個人研究が始まり、自分の進むべき道を考えていくこととなります。時々聞かれるのが、「専門学校と大学ではどちらがいいか?」「大卒で就職するのとこのまま高卒で就職するのはどちらがいいか?」という質問です。今回は、それぞれのメリットデメリットを紹介します。そこを踏まえて自分はどのような人生を送りたいのかよく考えて、自分の責任で進路決定をしていってください。

大学

大学は、4年制(6年制)で幅広い教養を身に付けながら、学術的・理論的な学習・研究を行い、高度な専門力を養うことができる場です。



- 学びたい科目を自分で選択できる
- 学生生活のスケジュールを自由に決められる
- ゼミ活動やサークル活動などで自主性や協調性が養える



- 自分から行動しないと、カリキュラム設定も何も進まない
- 学ぶ目的がなければ、4年という長い時間がムダになりかねない



専門学校

専門学校では、修業年限1年・2年という短期間で、特定の職業に必要とされる知識・技術・資格を身に付けることができます。



- 一般的に大学より低コストで、専門技術を身に付けられる
- 短期間で集中して学べる
- 卒業後は即戦力として、社会で活躍できる



- カリキュラムが過密で勉強が大変
- 学びが職業に直結しているため、目指す仕事を変更しづらい



どんな進路を選択しても、それぞれにメリットとデメリットがあります。メリットをより多く実感するためには、今のうちから情報収集をしてじっくり考え、決断する必要があります。「お兄ちゃんが進学したから」「友だちも進学するから」では通用しません。あなたの進路はあなたが決めるのです!



短期大学

短期大学は2年制・3年制の大学です。幅広い教養だけでなく、将来の仕事や実生活に役立つ知識・技術を学びます。



- 短い年数で専門的理論や知識を身に付け、短期大学士を取得できる
- 実践的な学びで、技術や資格を身に付けられる
- ゼミ活動も充実



- 大学より修業年数が短い分、カリキュラムが過密
- 自分で学びたいテーマをしっかり持っていないと、「おいてけぼり」になりやすい



留学

高校卒業後に渡航し、語学学校で集中的に英語を勉強し、大学編入を前提としたコースのあるコミュニティ・カレッジに進学。その後4年生大学に編入するという流れが一般的です。



- 語学力向上はもちろん、親元を離れ言葉も十分に使えない環境で生活する中で精神的にも大きく成長できる。



- 留学前の手続きや渡航後の行動など、自分で責任持って行動する必要があるため、苦労することが多いだろう。また慣れない環境での生活に、想像以上のストレスが溜まることも。

就職

企業から高校へ出される求人情報を基に、応募する企業を検討。高校を通して応募書類を提出、選考を進めます。



- 進学する人よりも早く社会経験を積めるので、そこで新たな夢が見つかり方向転換する際にも、若さとキャリアという武器を持って転職活動に臨めます。



- 学歴によって給与に差があるという企業も多くあります。また大学卒を就職条件とする企業や業種も数多くあるため、就職先の幅が狭くなったり仕事内容が限定されてしまう可能性も高くなります。

3年生が宅習期間に入りますが、次は下級生の番です。2年生はもちろんのこと、1年生も遠慮無く進路指導室を積極的に利用してください。お待ちしております!